

東京港海岸保全施設整備計画の概要

計画の概要

➤ 気候変動対策

伊勢湾台風級の台風による高潮に加え、気候変動の影響により将来の気温が2°C上昇すると想定した場合の海面上昇を考慮し、防潮堤の嵩上げを段階的に実施

気候変動の影響による降雨量が1.1倍に増加することを想定し、水門閉鎖時の運河の氾濫を防ぐため排水機場の増設を実施

➤ 耐震・耐水対策

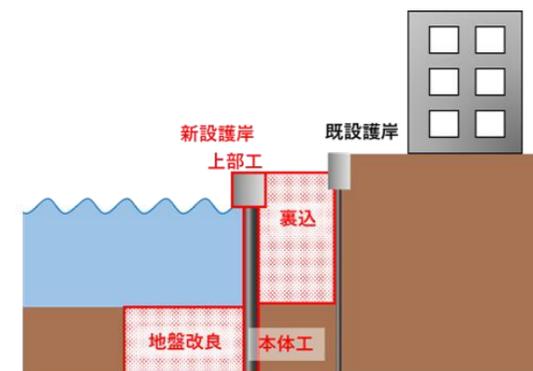
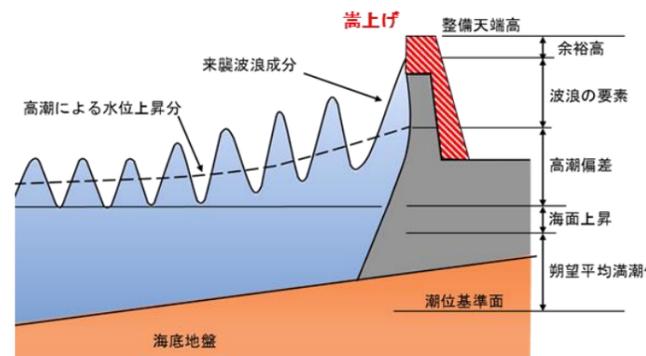
想定される最大級の地震が発生した場合においても、背後地を浸水被害から防ぐよう、防潮堤、内部護岸等の耐震対策を実施

万が一、地震により防潮堤等が損傷しその機能が復旧する前に高潮が発生する場合を想定し、防潮堤内側が浸水しても水門、排水機場の電気・機械設備が稼働するよう耐水対策を実施

実施内容

施設	対策	実施内容	整備対象
防潮堤	気候変動	海面上昇により2030年代までに整備が必要となる区間について、嵩上げを実施	約2.4 km
	耐震	護岸本体工の整備や前面の地盤改良等により耐震性を確保	約4 km※
内部護岸	耐震	護岸本体工の整備や前面の地盤改良等により耐震性を確保	約1.5 km
水門	耐震	最大級の地震に対応した施設の整備を実施	1 施設
	耐水	高潮による浸水を想定し、電気・機械設備を計画高潮位より高い位置に設置	
排水機場	気候変動	降雨量増大に対応するよう、排水機場の増設を実施	2 施設
	耐震	最大級の地震に対応した施設の整備を実施	
	耐水	高潮による浸水を想定し、電気・機械設備を計画高潮位より高い位置に設置	

※気候変動対策と重複あり



耐震対策イメージ図（内部護岸）

計画期間及び概算整備費用

➤ 令和4年度～令和13年度（10年間）

➤ 約1,500億円（うち気候変動対策費約300億円）



※江東地区における排水機場の整備内容・位置については検討中